

問一 傍線部㉑について、ある製品の名称を表す「莫大小」という語句がある。この語句は、その漢字が持つ意味から、その製品の特徴を示している。その特徴を次の選択肢から一つ選べ。(二点)

一、多種多様な 二、伸縮性に富む 三、年齢不問 四、大きくなる 五、サイズが揃っている

これは漢文知識として覚えておくど有利

「莫大小」：メリヤスと読みます

編み物の古い言い方、またはその素材で「伸縮自在」な性質を示す

「大小莫し」：大きくなったり小さくなったり：から来ているのだろう

答えは、二「伸縮性に富む」である

【答え 二】

問二 傍線部㉒について本文中の読みを送り仮名も含めて書け。(各二点 計四点)

唯 文脈を見てみよう

唯 有^リ 一 囚^ノ 無^キ 墨^モ

容疑者のうち、「たった」一人、墨がついていない者がいた。

そこから、「ただ」がよいであろう

【答え ただ】

蓋

蓋 恐^レ 鐘^ノ 有^ル 声^ル 不^ル 敢^{アヘ} 摸^デ 也

「思うに」金が鳴ることを恐れて鐘を撫でようとしなかったのである。

これは、漢文でも頻出の語句ではあるが、現代語でも覚えなければならぬ

答えは「けだし」である。

【答え けだし】

問三 傍線部㉓の読み方として最も適当なものを次の中から一つ選べ。(四点)

使人迎置後閣

- ① 人を迎へて後閣に置かしめて
- ② 人の迎へをして後閣に置かんとして
- ③ 人の迎へを後閣に置かしめて
- ④ 人をして迎へて後閣に置かしめて
- ⑤ 人をして迎へて後閣に置かんとして

おなじみ「使役」の句法

「使^ム○△」^セ…「○に△をさせる」となるのであるが、今回はちょっと違うぞ

使人「迎」「置」後閣

「迎」と「置」と動詞が二つあることから次の用法を発想しよう

・動詞(「△」の部分)が二つある使役の用法 ↑使役の応用!
これは三年後半の模試で頻出の句法である!今回極めよう!

「使^ム○□△」^セ…「○に□と△をさせる」

「□」が加わるわけだが、読みに注意!「□^{シテ}」と読む。

そして意味は「□と△をさせる」となる。

「□」も使役の意味となるのに、「□^{シテ}」と読むところがこの句法を難しくさせている!

「人をして、迎えて後閣に置かしむ」となる。

意味は、「人に、(鐘を)取りに行かせて(そして)奥の部屋に置かせた。」

【答え④】

問四 本文内の(1)(2)には「有」「無」のどちらかが入る。当てはまるものを選び。同じ漢字を用いてもよい。(各三点 計六点)

本文解釈系の問題

本文を正しく解釈できているかを問う問題である。

ここまですべてを要約してみよう。

陳述古は、盗人が正直に名乗り出ないため、工夫を凝らした。

大きな鐘を一つ用意し、容疑者たちに見せ、こう言った。

「盗みをしていない者がこの鐘を撫でると音が(1)。盗みをした者が撫でると音が(2)」

これだけでは答えを導けない。

もう少し要約を進めることで見えてくる。

陳述古は、鐘を垂れ幕で隠し、また鐘に墨を塗った。

そして、容疑者たち一人ずつ垂れ幕の中に入れ、鐘を撫でさせた。

みな、手に墨がついていたが、一人だけついていない者がいた。

これでわかったよね?

犯人は音が出るのを恐れて鐘を触らなかつたわけだから、

「盗みをしていない者がこの鐘を撫でると音が(出ない)。盗みをした者が撫でると音が(出る)」
…となるわけだね!

よって、(1)が「無」、(2)が「有」である!

問五 傍線部②について、犯人をあぶりだすために陳述古が行ったことを八十字以内で説明せよ。(九点)

文字数制限のある問題の解き方

適当に本文を訳しながら回答欄を埋めようとしなさいこと

なぜか？

- ・時間がやたらとかかる
 - ・文字数がなかなか合わない(九割くらいは埋めるべきだから。少なすぎはもちろん減点)
 - ・意味の通らない文章になりがち
- あるあるだよな。これでは最悪の結果になってしまいそう(よくても二、三割…下手すればゼロ点…)

では、「短時間」かつ「高得点」な回答を生み出す必勝法は…

簡条書きで要点を書きだす↓必要な部分をピックアップして回答を作成する

これがいちばん！

簡条書きは「適当」でよいぞ！それでも六、七割は期待できるぞ

では、やってみよう！

- ・陳述古は、盗人が正直に名乗り出ないため、工夫を凝らした。
- ・大きな鐘を一つ用意し、容疑者たちを集めて、鐘を目の前にしてこう言った。
- ・「盗みをしていない者がこの鐘を撫でると音が出ない。盗みをした者が撫でると音が出る」
- ・陳述古は、鐘を垂れ幕で隠し、また鐘に墨を塗った。
- ・そして、容疑者たち一人ずつ垂れ幕の中に入れ、鐘を撫でさせた。
- ・みな、手に墨がついていたが、一人だけついていない者がいた。
- ・犯人は鐘が鳴るのを恐れ、撫でることができなかった。
- ・つまり、手に墨がついていないものが犯人である。
- ・こうして陳述古は犯人の割り出しに成功したのである。

さあ、これらの中から文字数に合うようにピックアップして回答を作成しよう。

その際、大切なことは、

「問われていることに忠実な回答」となるように意識することである。これは重要！

記述問題は得てして、回答作成中にどんどんと主旨がずれていってしまいがちだ。これを最大限に防ぎたい！

具体例を細かく書いてはとても文字数が足りない。かといってまとめすぎると短すぎる！
上手にまとめよう！

【答え 容疑者たちに、犯人が触れると音が鳴るといふ鐘に墨を塗って一人ずつ触らせ、墨がついていない者

つまり鳴ることを恐れて触れなかった者を犯人としてあぶりだす方法。(七十八字)】

採点基準

「墨が手についていない者が犯人である」…三点

「鐘に墨を塗って容疑者一人ずつ撫でさせる」…二点

「鐘」の説明…一点

まとまった意味の通る日本語となっていること…一点

「くこと」など、名詞（方法）の説明として適切な結びとなっていること…二点
減点事項…八十字を下回る解答は短すぎとして三点の減点

文字数オーバーはもちろんゼロ点